

視 察 報 告

ネットワークみらい 野上 恵子

【視察日】 2026年8月13日

【視察先】 千葉県柏市

【調査事項】 千葉県柏市の部活動地域移行について、これまでの取り組みと課題

1. 導入の目的と経緯

柏市では、少子化による活動機会の減少と教員の働き方改革に対応し、子どもたちの活動機会を持続的に確保するため、部活動の地域展開を進めている。人口約43万人、中学校21校、生徒約1万人のうち約8割が部活動に加入している。

令和2年度から検討を開始し、令和3～4年度の国の実証事業を経て、令和5年度から全市的に休日の地域展開を開始した。平日は**学校部活動**、休日は**地域クラブ**として完全に切り分け、両方またはどちらか一方への参加を可能としている。

2. 運営体制と費用負担

運営は、一般社団法人柏スポーツ文化推進協会（KSCA）と協定を締結して実施。市は導入初期の3年間、運営団体への補助を行い、その後は**受益者負担による自立運営**を基本としている。

現在の費用は、年間登録料5,000円（3年生2,500円）、月会費2,000円。困窮世帯には、登録料・月会費を全額補助する制度を設けている。また、国の補助金も活用し、運営団体や活動費等を支援している。

3. 地域クラブの活動状況

令和8年7月現在、**17種目・199クラブ、約4,500人**が参加している。学校単位を基本とし、人数不足の場合は複数校による合同クラブを編成。ダンス、女子サッカー、硬式野球など、学校部活動にはない種目も選択できる。

休日の活動は3時間程度とし、勝利至上主義にならないよう配慮している。地域間の距離や人数差にも対応し、活動拠点の設定や少人数クラブへの財政的支援を行っている。一方、活動場所が遠い場合は保護者の送迎負担が大きく、定着率が低下する課題もある。

4. 指導者・運営体制

指導員は約358人（教員204人、一般154人）。市内の教員の約3割が兼業で地域クラブの指導に携わっている。専門委員長、施設コーディネーター、エリアマネージャーを配置し、活動場所の調整や巡回、緊急対応等を行っている。指導者不足の場合は、県内から人材を募集する仕組みも活用している。

5. 成果と課題

地域展開により、兼務する教員の休日勤務は月12時間程度まで半減し、兼務しない約7割の教員は休日業務がなくなった。市全体でも時間外勤務が減少している。

子どもにとっても、専門的な指導を受けられることや、学校の枠を越えた仲間づくり、活動種目の選択肢の拡大などの効果が見られる。

一方、中体連の公式大会については、現在も学校部活動としての参加が基本であり、地域クラブが主体となった大会参加の仕組みづくりが今後の課題である。また、陸上競技や吹奏楽など、種目ごとに指導者確保や活動場所、学校との調整など固有の課題を抱えている。

行政が初期段階の環境整備と財政支援を行い、その後は地域団体を主体とした自立運営へ移行する仕組みを作ったこと。吹奏楽部等の個別課題は、行政担当者との部活顧問が意見交換を繰り返し、課題解決をしていったこと等、これからの大分市の取り組みの参考としたい。